

小名濱埋立地 大魚市場建設

水揚額倍加の計畫

小名濱町では内務省築港事務所前海岸地六千坪の埋立を行ふべく豫てより主務省に申請中であつたが此の程許可になるとの内報に接した同町では許可あり次第今月末より起工し竣功後は同所に町營魚市場貨物發送所其の他の鮮魚關係の大建築物を完備せしめて同港現在に於ける水揚年額百三十萬圓を二百六十萬に飛躍的増加を計る筈である

四倉漁業組合 組織變更

漁業協同組合に四倉漁業組合は改正漁業法に依つて新たに保證責任の漁業協同組合と組織を變更

市制財政調査の 道草物語 (三)

川崎 文治

直江津は想像外に淋しい街だ。旅人の歡心を買ふ施設として、毒々しい色調で塗りたてた水族館のペンキ繪看板が、附近の色あせた家並みとの調和がとれず、沈淪の底から焦つてあける悲鳴を感じさせて、凄愴の觀がある。土地の人達

樂館に小名濱入港中の那珂乗組軍樂隊卅名を招へ同町最初の軍樂隊演奏會を催した

平消防を視察

栃木縣から

軍樂隊演奏 江名町主催で

既報江名町役場では同町江

から梅雨の濱は 浴客吸引對策

サービスタ法を研究して

梅雨をよそに好天氣つゞきの小名濱、四倉等の海水浴場では昨今各旅館がそれぞれ座敷内外の清掃や庭園の手入れに萬端の準備を進め更に鐵道側とも連絡して避暑客の吸引サービスタ法の

四倉埋立着工

既報四倉町が豫て申請中であつた海軍埋立工事は此の程許

では持ち切れなくなつて、今は森永の手に移つた製菓會社の外に、見るべきものは無い。

町長の話によると同地は往昔良港として、物質の集散多く人口六萬を數へる程の繁昌を呈したが、人々は此の天恵に心酔して他に求むべき何等の方途を構はなかつた處へ、交通が四通八達した結果は、却つて景氣の總べてが、同地を素通りして、他へ運ばれて終ふ爲

直江津から汽車に乗り込んだ所が、再び坂本議員の一行と一緒になつた、偶然の奇遇にベイヤ、辨を連發して、互に健康を祝し合ふ。

旅情を慰ふ 『花に躍る平』

教育總集會々員に

石城教育部會並びに平町役場では今十五日平町に宿泊する教育總集會の二千名の會員のために今夕七時より役場會議室で過般好評を博した郷土映畫『花に躍る平』の映寫會を開き旅情を慰めると

小田吉次氏 けふ平入り

既報大阪セメント疑獄事件に關連した納炭事件で大阪地方裁判所豫審判事の令状で大阪北區支所に收容された好間村岡田川炭礦主小田

吉次、警崎村小野田炭礦主戸部光衛の兩氏は取調べ終了し昨十四日午後四時出所を許され本十五日午後一時四十五分平驛着列車で歸國の様頼み込んで、漸く別館とかに泊めて貰つたさうで、旅の第一夜の印象なるものを甚だ悪くしたらしく兩君長嘆息して曰く『どうも俺達を金買人と見たらしい、それも此のカバンが悪いんだ』と御自分を棚に上げて、カバンを恨む事、恨む事……、爾來、われ等の一行は、彼等と呼ばずに『キンカヒ議員』の尊稱を以つてし、キンカヒ議員の一行今日はドコ迄行つたやら……と、安否を氣支ふ事限りなし……。

可の指令を得たので同町では愈々来る十九日より着工する事に決定した

する旨の電報が自宅に入つ

平町人事

- △鎌田町 當時赤井村字不動澤吉野金三郎四男武明
- △五丁目 草野源吉氏四女サイ子
- △新川町一八 小倉弘氏長男眞一
- △大工町一七 丹野勝美氏長男博士
- △回死 亡
- △鎌田町四五 當時赤井村字不動澤小野武明(二ツ)
- △一丁目 當時北海道網走町南五條西三丁目比佐六平(二二)

藤沼醫院

平町・紺屋町 電話五〇七番

謹告

代議士佐藤庄太郎君今般萬國議員會議列席の重大使命を帶び渡歐致さる事に相成り候へば些かその行に祝意を表し左記の如く送別の宴を開催申すべく候間多數各位の御賛成御出會を仰ぎ度此の段以紙上謹告仕り候

期日 六月二十日 午後一時開會
會場 平町住吉屋本店
會費 金一圓也
發起人 井上 茂作
小野 晋平
田子 健吉
青沼 健太郎
木村 清治
鈴木 辰三郎

萩原 義雄
金成 通
野崎 滿藏
安島 重三郎
古川 傳一

東京短期(前場)

期	東	中	先	大
一節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
二節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
三節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
四節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
五節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
六節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
七節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
八節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
九節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
十節	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

小名濱港視察

調査委員一行

有力な意見書を 政府に提出する

既報東北港調査委員会委員長堀切善次郎、安藝博士、末永大阪商船重役外委員三の一行は昨十四日小名濱町内務省築港で案内役の本縣追經濟部長、大石土木課長佐藤代議士、外地元關係者から詳細な説明を聴取し午前十一時から築港事務所船大沼丸で工事箇所及び江名仲

視察日程を變更

四倉、久ノ濱に向ふ

別稿昨十四日小名濱で視察と座談會を終へた東北港調査委員会一行は同日夜湯本に一泊十五日平驛から福島に向ふ豫定であつたが急に豫定を變更して本十五日午前七時自動車にて四倉漁港視察に出發し更に久ノ濱、相馬、松川浦等を視察の上福島に入ると

佐藤代議士の

送別會

住吉屋本店で

萬國議員會議列席の爲め渡歐する佐藤代議士のため井上茂作氏外左記諸氏が發起となり来る廿日午後一時より住吉屋本店で盛大な送別會を開きその行を祝するこ

まつた。この血眼になつて捜しても判らないので半分断念しかけた昨日警察から金五十錢で買取られて四丁目某商店にあつたとの電話。飛び上つて欣ぶ管の吉岡所長いつかな喜びもせつ。五十錢ばかりで買つたとは怪しからん。いつもの温顔に似ず御憤慨であつたとか。刑務所官舎へ入る泥棒だけに百五十圓の蘭をタツタ五十錢とはどこまでも間が抜けてるではありませんか

縣下繭の初取引

けふの四倉市場 出荷五百貫前後

既報本十五日縣下繭市場のトツを切る四倉市場は沼津市場高値の影響を受け相馬、伊達、信夫の各郡及び山形、群馬等一流の買受人が入り本日正午迄に二百貫近い出荷があつたので本日の初取引は約五百貫位で相場は高値四圓三四錢見當と豫想されて居るが本格的出荷を見るのは十八日頃からであらうと

舊惡がバレ

平署に檢舉

平町三丁目カフエー米久方コック宮城縣刈田郡筆由村生れ八巻利吉(三)は昨年十一月高田町某料理店に雇れた事發覺し此の程平署に檢舉された



明日のラジオ
十六日
天候 今夜も明日も南東の風曇り明日は天気次第に良くなる

今晚の部

後六、〇〇 童話劇「水の旅」
後六、二五 趣味講座「鮎の人工養殖の話」滋賀縣水産試験所長田口長治郎
後七、三〇 トランペットとシロフォン 獨奏桃谷演
後八、一五 ラヂオ小説 母東山千枝子
後九、〇〇 時事解説 氣象通報 番組豫告

明日の部

前九、三〇 神詣京都市建勳神社より中繼
前一〇、〇〇 日曜勤行法要古仲風洲
前一〇、四〇 講演「北支の時局に就て」陸軍歩兵中佐楠本實隆
前一、一〇 講演「七年間を回顧して」一力次郎
後〇、五〇 滿洲より 黃牌曲奉天滿洲劇團
後一、二〇 謡曲離子竹生 鳥汲心會々員
後一、四五 琵琶「屋島の

家族を棄て 逃避行

宮城縣仙臺市土橋小路吳服行商鈴木米太郎(三)は去る十三日二男一女と妻を置去り隣家の小間物商木村トキ(三)と謀し合せ行衛を晦した。平町方面に居るらしいからと本妻トキさんから捜査願ひを出して来た

勿來町の慘劇

殺人未遂で

石城郡勿來町大字開田字松ケ澤木挽間喜久吉(五)が内縁の妻早坂ハツ子(三)が家主である勿來町大字開田字關山今井兼吉(三)と親しくするのを嫉妬してゐたが去

瀬戸物泥棒は 妻い吳服屋荒し

平署餘罪に驚く

平町五丁目入江瀬戸物店から瀬戸皿八十枚を窃取して平署に檢舉された勿來町阿部力(三)の餘罪を取調べた處同人は八年未から部下を荒した吳服専門の怪盗で被害千圓に達する大泥棒である事が判明したが被害の主なるもの左の如くである
△昭和八年十二月平驛構内倉庫より丸通扱ひのナフトル地三十五圓方を

平裁判たより

△石城郡湯本町大字湯本字日後六一無職佐藤末治(五)は昨年九月頃湯の岳山中よりやまがら一羽、去月中自宅附近で目白一羽いづれも狩獵鳥以外の鳥を捕獲し同町青木兼次郎に七十錢で譲渡したこと發覺狩獵法違反で略式罰金二十圓に處さる

平職業紹介所報告

求人を求める方
△女店員 二十五才 尋卒 月十二圓
△農夫 四十五才 給料面談
△女中 二十才 尋卒 月七・八圓
△回職を求める方
△自動車助手 二十才 高卒
△書生 十六才 高卒
△土木技師 三十才 攻玉工業卒
△料理人 二十七才 尋卒
△漁夫 二十七才 尋卒



明治太平記

(作) 寺島經史
(監) 野口 雄

第五十回

思慕と望郷(三)

『所さん、あの方まだ東京に居らつしやるかしら』

『あの方?』

『大志賀さんですわ』

おとわは、大志賀の名をいつて、さつと花片のやうに頬をそめた。

『ほう、あの、助太刀屋か』

『……はい』

『うむ……おとわさん、あなたは、あの助太刀屋さんを想つてゐただね』

『成程、さうか。敵討を断念しても、やつぱり助太刀屋に用があるのかい……成程なア』

助太刀屋の大志賀に、戀慕してゐるな……と云はれて、おとわは、初めて、自分自躍にそれをたしかめてみて思はず顔をそめた。

今迄、單に、大志賀に會ひたい。あつて力づけて貰ひたい……といった氣持で自分をだづねて來て呉れるであらう助太刀屋を、心待ちに待つて居たのだが、いま茂平次に、あからさまに心の扉を押し開かれてゐる

と、そこに、さらけ出されたものは、助太刀屋の剣を求めて居るのではなくむしろその情にあこがれて居る自分だつた。

微笑みさへ面に現はさず事もなげに云つた。
『お恥かしうございます』
おとわは、哀艶の情をうつたへた。
『なんの、恥かしいものか若い女の眞實だよ。さういふことなら、あの助太刀屋を是非にも尋ねて、引合してやらうのう。おとわさん』
『はい……でも』
『傳馬町の牢屋を破つてからはどうせ厳しい詮議だらうから、尋ね廻るこちらも難儀だ草の根をかき分けても探してやらう。おとわさん』



所さん
あの方まだ東京に
おらつしやるかしら

男を思慕するなど、何といふ情ない女だらう。おとわは自分にあきれた。
『成程、敵討より、色戀?なるほど、これも時勢がさせるのだよ。なアおとわさん、お前さんの氣持はわかるよ』
茂平次は、苦勞人らしい

さん、當分二人で東京中を巡禮だ
『済みません』
『なんの、済むま済まぬもあるものかい。どうせ選ばれた結ひの神だ。一對の夫婦をつくつて、千島への土産話にするさ。ハッハ、ハ、』

茂平次は、豪快さうに笑つてみせた。ともすれば滅入りがちな女心を引立てようとする、思ひやりからだ
『でも北海道へお歸んなさるあなたに、わたしのために、いやな東京に滞在しなければならぬなど、申譯ありませんわ』
『いや、いま歸つたところが、千島は真冬だ。氷と雪にうづもれて渡る事さへ出来ないよ、どうせ北海道へ渡つても、函館に春まで遊んでをる身體だ。春までいやな東京をうろつき廻つて一組の男女をつくるのも面白から、それに、目出度く夫婦雛が出来上つたら、千島へ連れて行くかも知れないぞ』
『……』
『好いた同志なら、千島の果で手なべさげてもらいたらう、どうぢやな』
茂平次は、おとわの顔を覗きこんだ。

店主	が	店員
を	運	れ
か	れ	る
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
正	シ	イ
平・田町		
ラ	ス	ト
サ	ロ	ン
電	二	五
番		

看護婦急派
求めに應じ
ます
平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

夏は來り
本年も清新なキクチの……
白靴を 二五〇ヨリ
六圓マデ
野に山に新製耐久力の……
ハイキング靴を 七五〇ヨリ
婦人洋装にスマートな……
ハイヒール靴を 七五〇ヨリ
平四驛通り
菊地クツカバン店
電六五九

荆妻アサ儀永らく病氣の處養生不相
叶昨十四日午前九時五十分死去致候
問此段御通知申上候
追而葬送の儀は來る六月十七日午後二時自宅
出棺菩提院にて執行可致候
平町三丁目
男 小野伊佐治
小野麟太郎
親戚一同

丸ほん冷蔵器
御家庭にも御營業にも最も
理想的な冷蔵庫……
今年の外壁の絶縁装置を特に完全に改良を加へましたので、より一層僅かの氷で非常によく冷える様になりました。内部の構造にも一大改良を加へましたので排水が良くすべて便利になりました。爲に貯藏される期間も延長されました。価格は……精選した材料を完備した製法に依る大量生産の爲良品を廉價に御提供する事が出来ます。
丸ほん新家庭型……金十五圓より
丸ほん新六號……金七十圓より
丸ほん新六號……金七十圓より

株式會社 丸ほん商店
各種豊富陳列(御一覽を願います)
平町三丁目一六
電話三五九番 製作所 平町新田前
振替東京二一七二四 電話一八二番

電話新設
三三〇二番
お魚の御用命は是非弊店へ
平町四丁目
鮮魚産 生田目魚店